

冬期テキスト

必修編

国語

中学 2 年



第7講座 確認問題

古典——古文の読解・漢文の知識

2 次の漢文と書き下し文を読んで、後の問いに答えなさい。

子曰、「吾嘗終日不食、終夜」

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

^①宇治殿、葉一といふ笛を^{}伝へ持たれたりと聞こしめして、内裏^{*}よりある藏人して、かの笛を召されけるに、御使は、御はふたつ、召しある由ばかりを申して、笛といふことを申さざりければ、老後に歯二つ、召され候ふこと、^{*}術なき由、御返事に奏せられたりけるも、一つの不思議か。〔十訓抄^{より}〕

(注) 宇治殿=藤原頼通。伝へ持たれたりと傳へ持つてゐる。

聞こしめして〔帝が〕お聞きになつて。内裏=天皇。

術なき=どうしようもなくつらい。

問1 仮名遣い——線①「宇治」、——線②「藏人」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

(1) () (2) ()

問2 主語——線③「申さざりければ」、——線⑤「奏せられたりける」の主語を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 宇治殿 イ 葉一

(3) (4) (5)

問3 内容理解——線④「御返事」の内容を書きなさい。

ア 蔵人 イ 内裏

() ()

不^{シテ}寝^{いネ}、以^{もつテ}思^フ無^レ益^シ。不^{ギル}如^{シカ}学^{ブニ}也^{ナリト}」

〔論語^{より}〕

子曰はく、「()」、終夜寝ねずして、以て思ふ。益無し。学ぶに如かざるなり。」と。

問1 書き下し文——線①「吾嘗終日不食、終夜」を書き下し文に直しなさい。

問2 返り点——線②「不^ル如^カ学^{ブニ}也[」]に、書き下し文を参考にして、返り点を付けなさい。

不^ル如^カ学^{ブニ}也[」]

問3 古典常識 文章中の「子」とは誰のこ

とか、漢字二字で書きなさい。

()

せられたりける」の主語を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 宇治殿 イ 葉一

(3) (4) (5)

記号で答えなさい。

ア 宇治殿 イ 葉一

() ()

記号で答えなさい。

ア 宇治殿 イ 葉一

() ()

要点のまとめ

1 古文の読解

1 歴史的仮名遣いに慣れる。

2 古文の言葉を理解する。

・現代語にはない言葉

・現代と意味の異なる言葉

3 古文を読む。

助詞や主語の省略や、主語を示す助詞「の」、引用を示す助詞「と」、係り結びなどに注意し、動作の主体や会話の内容を捉えながら読む。

4 主題を捉える。

2 漢文の知識

1 文の種類を知る。

白文=漢字のみの文。原文。

訓読文=白文に訓点(送り仮名と返り点)を付けた文。

書き下し文=訓読するとおりに書き表した漢字仮名交じりの文。

書き下し文=訓読するとおりに書き表した漢字仮名交じりの文。

2 送り仮名と返り点を知る。

送り仮名=漢字の右下の片仮名。

返り点=レ点、一・二点など。

3 漢字を読む順序に注意して読む。

基本問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

姜詩は母に孝行なる人なり。母つねに江の水を飲みたく思ひ、また生魚の鱠をほしく思へり。^①すなはち姜詩妻をして六七里の道を隔てたる、江の水を汲ましめ、また魚の鱠をよくしたためて與へ、夫婦ともにつねによく仕へり。ある時姜詩が家の傍に、忽ちに江の如くして、水湧き出で、朝毎に水中に鯉あり。すなはちこれをとりて母に與へ侍り。かやうの不思議なることのありけるは、ひとへに姜詩夫婦の孝行を感じて、天道より與へ給ふなるべし。^{「二十四孝」より}

(注) 江=大河。 鮓=細く薄く切った肉。

天道=天地を支配する神。

問1 古語の意味 — 線①「すなはち」の意味を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア つまり イ そこで ウ たとえば エ しかし



問2 仮名遣い — 線②「仕へり」、— 線③「かやうの」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で

(2)

(3)



問3 主題 — 線④「不思議なること」についてまとめた次の文の A ～ C に当てはまる言葉を古文中から抜き出し、それが起こった理由を筆者がどう考へているかを簡潔に書きなさい。

A の家のそばに B が湧き出て、毎朝 C がとれるようになった。



2 次の漢文、書き下し文、現代語訳を読んで、後の問いに答えなさい。^{〔青森〕}

【漢文】

往時、遼東有レ豕、生レ子白頭。異而献レ之。

行^{キテ}至^リ河東^ニ見^テ群豕ノ皆白懷^{キヲ}懸^ヲ而還^{オル}

【書き下し文】

往時、遼東に豕有り、子を生みて白頭なり。異しみて之を献ぜんとす。
群の豕の皆白きを見て、懸を懸きて還る。

【現代語訳】

昔、遼東地方に豚がいて、子を産んだところ、子豚の頭が白かつた。これを見た人が、珍しいと思つて王に献上しようとした。河東地方まで行つて、群れになつてゐる豚の頭が皆白いのを見て、恥ずかしく思つて帰つてきた。

(後漢書)より

問1 書き下し文 — 線①「行^{キテ}至^リ河東^ニ」を書き下し文に直しなさい。



問2 内容理解 — 線②「群の豕の皆白きを見て、懸を懸きて」とあります
が、恥ずかしく思つた理由を簡潔に書きなさい。

ア みえっぱり イ ひとりよがり
ウ いじっぱり エ へそまがり



演習問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

*かめやまどの
亀山殿の御池に、*おほあがは
仰せて、水車を造らせられけり。多くの錢を給ひて、数日に營み出だして、掛けたりけるに、大方廻らざりければ、*とかく直しけれども、終に廻らで、徒らに立てりけり。さて、*うぢ宇治の里人を召して、こしらへさせられければ、やすらかにゆひてまゐらせたりけるが、思ふやうに廻りて、水を汲み入る事、*めでたかりけり。方にその道を知れる者は、*やんごとなきものなり。

(注) 亀山殿=京都市右京区にあつた、後嵯峨上皇・亀山上皇の離宮。

大井川=京都・嵐山のふもとを流れている川。

まさせられんとて=（上皇が水を）お引きになろうとして。
土民=その土地の人。 仰せて=お言いつけになつて。

錢=金。 営み出だして=こしらえ上げて。 大方=全然。
とかく=いろいろと。 徒らに=無駄に。

宇治=現在の京都府宇治市。昔から水車の名所で知られていた。

里人=その里（土地）の人。
やすらかにゆひてまゐらせたりけるが=やすやすと組み立ててさしあげたが。
めでたかりけり=みごとであつた。 やんごとなきもの=たいしたもの。

問1 主語——線①「給ひて」、——線③「直しけれ」の主語を次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア 大井の土民 イ 上皇 ウ 宇治の里人 エ 筆者 ① ③

問2 古語の意味——線②「大方廻らざりければ」の意味として適切なもの

を次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ほとんど回らなかつたけれど イ ほとんど回らなかつたのに
ウ まつたく回らなかつたなら エ まつたく回らなかつたので

(注) はしたなきもの=きまりの悪いもの。

異人=他の人。

物などとらする=何かをくれる。何かを与える。

いとど=ますます。

うち言ひそりたるに=なんとなく悪口を言つてゐる。

問3 仮名遣い ——線④「まゐらせたりける」、——線⑤「思ふやうに」を現代仮名遣いに直し、すべて平仮名で書きなさい。

(4) (5)

問4 内容理解 この古文を内容から三つに分けるとすると、どこで区切るのが適切ですか。二つ目のまとまりの初めと終わりの五字を抜き出しなさい。

問5 主題 この文章で、筆者は何を述べようとしていますか。三十字以内で書きなさい。

2 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。

*はしたなきもの。異人を呼ぶに、われぞとてさしいでたる。物などとらするをりはいとど。おのづから人の上などうち言ひそりたるに、幼き子どもの聞き取りて、その人のあるに言ひいでたる。あはれなることなど、人の言ひいで、うち泣きなどするに、げにいとあはれなりなど聞きながら、涙のつといで来ぬ、いとはしたなし。泣き顔つくり、*けしき異になせど、いとかひなし。*めでたきことを見聞くには、*まづただいで來にぞ 。 〈枕草子〉より

(注) はしたなきもの=きまりの悪いもの。

異人=他の人。

物などとらする=何かをくれる。何かを与える。

いとど=ますます。

うち言ひそりたるに=なんとなく悪口を言つてゐる。

おのづから=たまたま。

人の上=人のうわさ話。

弊社サンプルをご覧いただき、
ありがとうございました。



紙面サンプルは ここまでです！

Bunri Teachers' Site へのご登録で、
全ページ見本^{*}と目次をご覧いただけます。

※一部教材を除く

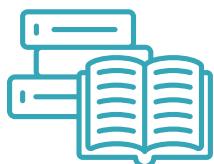
会員登録はこちら



Bunri Teachers' Site とは？

株式会社文理が運営する、塾・学校の先生方のための情報サイトです。

文理の教材紹介



デジタルサービスや
テストのお申込み



教育情報の発信



オンラインセミナー
のお知らせ

